

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672800204		
法人名	マイクロ株式会社		
事業所名	グループホームまごころ城陽 ひまわり		
所在地	〒610-0111 京都府城陽市富野南清水68番5		
自己評価作成日	平成28年9月1日	評価結果市町村受理日	平成28年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyouvoCd=2672800204-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒611-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」 1階
訪問調査日	平成28年10月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まごころ城陽では、その人の人生に寄り添う事を念頭に、この人にとって必要なケアとはなにか？安心安全の為に何をどう支援するのか？を日々考え、実行しています。生活の中で自然なかたちで日常生活動作を維持できるように工夫し、また暮らしに充実感をもっていただけるよう、家事、買い物、個人的趣味の継続など、したいこと、できることをいつまでも続けられるような支援を心がけています。月に一回程度の行事外出では出来るだけ希望に沿い、季節感を楽しみ味わっていただけるようなプランを実行しています。また、グループ独自の取り組みとして『大人のくもん・学習療法』を実施。科学的根拠に基づいて非薬物療法での認知症進行を遅らせる取り組みも行ってます。職員教育では認知症に対する理解を深める為『ユマニチュード』を採用し、技術的側面からもアプローチを試みています。まごころの名に恥じないよう、まごころあふれる対応で利用者やその家族をホーム内外で支援している地域に根ざした事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

城陽市南部に位置し、JR奈良線の長池駅から程近い24号線沿いに明るい壁面を持つ二階建てが「まごころ城陽」である。二つのユニットを持つグループホームと小規模多機能ホームが併設されている。お互いに協力体制のもと、理念を共有して「心優しい」サービスを提供している。今年から、新たに市の委託を受けて二階の地域交流ルームを活用して、認知症カフェとして「みんなのカフェ」を地域住民を対象にオープンしている。認知症の話や、懐かしい唄をうたうなど楽しい時間を提供している。コーヒーやケーキもうれしいおもてなしである。「認知症予防教室」「認知症サポーター養成講座」なども継続して実践しており、行政・地域住民との連携・貢献が根付いてきている。入居者と職員の穏やかな笑顔は、ユマニチュード介護技術・学習療法の継続の成果と思われる。職員が、入居者一人ひとりの思いを聞き取り、その思いを実現できるのも職員間で協力しあっていることである。経営責任者や管理者が、職員の意見を大切にしていることから働きやすい職場となり、離職率が低くなっているのは、入居者・家族などが安心して暮らせる生活環境と言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	#	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	#	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	#	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初からの基本理念に基づき利用者、家族、職員、地域等が一つの輪となれるように日々の暮らしを支援している。又、毎朝の申し送りで基本理念、事業指針を唱和して利用者の笑顔に繋がるよう取り組んでいる。	法人の基本理念を「心はずむ やさしさの輪」と表明している。開設以来この精神は変わらず一貫してサービス提供の「柱」として実践に努めている。更に、グループホーム城陽は「家庭的な雰囲気である人があがままに過ごす」を事業所の基本的な考えとして表し、全職員が周知して法人の理念とともに、日々のサービス提供に繋げている。入居者・職員の「穏やかな表情」から実践状況を窺い知ることが出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣幼稚園との交流を初めとし、地域中学校からの体験学習を受け入れている。地域の行事には出来るだけ参加し、まごころで開催する夏祭りなどの行事にも地域の方が気楽に来ていただける環境をつくっている。また、普段の買い物や散歩でも気軽に声をかけていただいている。	開設以来地域との交流に努めて来たが、その成果が徐々に実を結んできている。今回初めて市からの委託を受けて、事業所の地域交流室を会場に「認知症の人や家族・地域住民などが自由に参加し、情報交換や相談ができる認知症カフェ」を開催している。事業所の夏まつりには、近在の人たちを招待し入居者・利用者・地域住民などが互いに打ち解け交流の場を広げている。子供達との触れ合いも大切な時間になっている。近在の薬局や自治会・婦人会などとも協力関係ができてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市からの委託事業である認知症予防教室は8年目を迎え、今年度より新たな委託を受けて認知症カフェを開催、参加者から好評を得ている。また中学生の体験学習の際には『認知症サポーター養成講座』を実践し、サポーターを増やす活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においての意見や情報を活かし、提供するサービスの向上に努めている。最近の事例としては運営委員の所属する自治会に対し、行事への参加や施設見学会、サポーター養成講座などを開催した	会議には、市議員・行政担当職員・地域包括支援センター職員・民生委員・薬局の薬剤師・家族代表の出席を得て、事業所からは経営責任者・次長・グループホーム管理者・小規模多機能ホーム管理者が出席して情報・意見交換を行っている。事業所の活動状況も伝え理解と協力を得ている。「市で食中毒注意報が出ているので注意してください」など委員から出されている。	多方面で活躍されている方々の出席を得て、活発に情報・意見交換が行われていると推察できます。しかし、議事録を拝見する限り意見交換の内容がしっかりと伝わってこないのが大変残念です。個人情報などに配慮しながら、出席しておられない方にも伝達できるような議事録の作成を工夫して下さることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、城陽市高齢介護課の職員に参加頂き、アドバイスや情報を頂いている。またケアマネ連絡会や地域密着型サービス事業所連絡会などに参加し情報交換している。	運営推進会議に、行政の担当職員や地域包括支援センターの職員が出席しているので、事業所の状況を把握してもらっている。市からの委託を受けて「認知症サポーター養成講座」を受け持ったり、「認知症カフェ」の開催など、多方面に渡って双方向での協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に事業所内で研修を行い正しく理解できるように努めており身体拘束のない日常生活を支援している。取り組みの中で日中玄関、門扉などの施錠は行っていない。	法人の年間研修計画に基づき「身体拘束と虐待について」として研修を行っている。NGワードなど具体事例などもあげて職員が理解しやすいように工夫している。ユマニチュード技法の勉強会を行い入居者の気持ちを大切に支援にあたっている。抑制するような言葉遣いにも留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についての資料を職員に配布、伝達するとともに定期的に事業所内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方はいないが、必要があれば活用できるように心がけている。また管理者は研修や資料配布を行い、職員に制度についての一定の理解を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書の内容を読み上げ（説明）同意をえている。又、不安や疑問については十分に説明し理解を得ている。解約時においても個別に相談を受けるなど安心していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れや、利用者との日常会話の中から利用者の意見、要望を聞き取り、スタッフ間で共有、対応している。家族とは来訪時に意見交換を行ったり家族会などで家族同士が自由に意見交換出来る場を設けている。又無記名で家族アンケートに回答及び要望を提出して頂いている。	運営推進会議や家族会或いは来所時などから家族などの意見を聞き取っている。定期的に来所する介護相談員からも情報を得ている。入居者からは日常的に交わす会話などから要望など聞き取っている。家族アンケートも実施して意見・要望などを収集する機会としている。駐車場の整備や玄関前が殺風景との意見があって、来客用の駐車スペースを明確に表示したり、植木鉢をおいたりして改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常会話やユニット会議、引継ぎの際に職員との意見交換に務めている。また年に2回及び必要時に個人面談の機会を設け職員の状態を把握するとともに、提案などがあれば検討し、具体化出来ることは早めの対応を心がけている。月に1回の事業所報告シートを活用し、職員の意見が直接代表者が把握できるようにしている。	日常業務の中やユニット会議などで職員は積極的に意見を出している。管理者に直接「気づき」を話すこともある。経営責任者や管理者などは、職員一人ひとりの意見を大切に考えて対応しているのも、働きやすい職場環境になっており離職率は低い。職員のストレス解消にも、福利厚生面（ボーリング大会など）を充実させている。なんでも気軽に話し合っ改善に繋げられる雰囲気づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行ない職員の頑張りに応じた評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、及び事業所内研修の実施、又外部での研修にも努めて参加できるようにしている。日々の業務などに於いてもユマニチュードを取り入れ指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加盟し、積極的に同業者との交流や勉強会を行っている。また、同協会の主催する全国大会にも参加し、たくさんの情報を交換している。市内においては地域の介護支援専門員の連絡会や地域密着型サービス事業所連絡会にも参加し同業者間での交流、勉強会、その他情報を共有できる機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、内部見学を自由にして頂いたりショートステイの利用も設定している。入居の面談においては可能な限り本人の思いや要望を聞き取り対応出来るよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り家族に寄り添い、思いや要望を聞き取り対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援	相談の際に本人が必要としている生活支援を見極め適切なアドバイスを行う中で、必要に応じて、他の施設や相談先を紹介することもある。		
18		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	馴染みの関係作りから共に安心して快適な生活、楽しみと笑顔のある生活が送れるよう支援している。又人生の先輩として多くの事を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	配偶者を含めた家族とは気軽に来訪して頂ける関係になっている。各行事にも参加して頂いたり、運営推進会議に参加していただき、要望や協力事項への意見を交わす等共に支え合える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談の上本人の大切な人、関係の深い近隣住民や馴染みのある場所との関係が途切れないよう支援している。(思い出深い場所への個別外出など)またいつでも気軽に訪問して頂きゆっくりと面会を楽しんで頂けるような環境づくりをしている。	職員は、入居者とおしゃべりの中から、入居者の「行きたい所」「食べたいもの」「会いたい人」などを聞き取り、できる限り希望を叶えられるように努めている。平等院や嵐山など昔出かけた思い出の場所に出かけたりして喜ばれている。生まれ育った町へ出向き昔の記憶を呼び覚ましたり、長年勤めた職場を訪問して感激された事例もある。日常的には、コーヒーショップやスーパーに出かけて馴染みの関係作りもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の馴染みの関係からお互いに助け合う姿や仲良く会話をして和んでおられる姿が見られる。また、職員もその良好な関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の所へ訪問したり又、退居後も気軽に電話や来訪して頂ける雰囲気作りを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活支援の中で本人の希望や意向(表出が困難な利用者に対しては思いを勘案)を把握できるよう取り組んでいる。また何でも話せる馴染みの関係を築き、環境面においても、1対1で落ち着いた話が出来る環境作りにも重点を置いている。	入居前に、本人・家族などから生活歴や心身の状況・趣味や今後の生活の要望など聞き取りアセスメントシートに記載している。入居後は、日常の言動などから思いを汲み取って、一人ひとりの情報を豊富にしている。職員間で情報を共有し個別支援に繋げている。	

京都府 グループホーム まごころ城陽（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に関わる面談の際、又、入居後においても可能な限り本人、家族、その他の方などから情報を得てこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活支援の中で本人の希望や意思を把握できるよう取り組んでいる。暮らしの中で「出来ること」「出来ないこと」「したい事」「したくない事」を把握しその方の状態に応じて活動して頂けるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時に本人や家族の希望を基に主治医の意見を取り入れた担当者会議を開催しその意向を反映させた介護計画を作成している。	日常生活の様子を介護記録日誌に記載し、1カ月でまとめてユニット会議でモニタリングしている。その結果をもとに、家族などや医療関係者からも情報や意見を得て担当者会議で検討し、現状に即した介護計画を作成している。退院時や変化があれば随時最長3か月で見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日誌に日々の様子や変化などを記載し、毎日の申し送りなどで話し合った事や情報を共有してケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者への受診や入院時の入院生活支援をしている。又、状況によりショートステイの受け入れも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアや見守りボランティアなど、日常生活にかかわってくるボランティアの受入を積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に係る面談において本人や家族の希望を優先する事とホームドクターについての説明を行っている。利用者の大半が希望によりホームドクターの適切な医療を受けているが、他に信頼できる主治医がいる場合はかかりつけの病院を受診している。また必要に応じて他の医療機関（精神科・針治療・耳鼻科、他）も受診している。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を大切にしているが、概ね事業所の協力医療機関の医師の往診を受けて健康管理を委ねている。定期的に往診を受けているが、24時間の協力体制のもと、緊急時も速やかな対応ができるようになっている。また、近在の薬局とも協力体制ができて服薬などの相談ができるようになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は日常の関わりの中において状態の把握に努め、気づいた事は随時ホームドクターに連絡して指示をうけている。ドクターの往診時に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者への情報提供を行うとともに入院中においても利用者に安心して入院生活を送れるよう頻繁にお見舞いに伺っている。又その際に可能な限りDrや担当看護師などより利用者の状況の情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の重度化及び終末期に関しては家族やホームドクターと相談し事業所の方針を決め全員でその意向を尊重した介護に取り組んでいる。家族、ホームドクター、訪問看護の協力を得てホーム内で家族と一緒に看取りを行ったことがある。	「重度化対応及び看取り介護対応について(ターミナルケアの指針)」「医療連携体制フローチャート」を作成し、事業所の方針を家族などに説明している。重度化や終末期が訪れた場合、医療機関・家族など・事業所と十分話し合いの上、最善の選択を行い支援に繋げている。事業所での看取りを行った事例を持っている。特別養護老人ホームへの入所の選択肢も用意されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通じて緊急対応・夜間緊急対応マニュアルに沿った対応が出来るよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(地域住民、民生委員、行政機関参加)の実施と共に日常、定期的安全点検を項目に沿ってチェックし、専門機関による設備点検も定期的に行っている。また地域の広域防災訓練や消防署主催の福祉施設防火研修にも参加している。	年間研修計画に「非常時災害対策について」を組み入れ職員対象に実施している。「非常災害対策マニュアル」も作成し有事に備えている。年2回の防災訓練を実施して地域住民や民生委員・行政職員などの参加も得ている。備蓄は、2階の倉庫に保管しているが、日常的に使用して買い足していく(ローリングストック)方法をとっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードを実践し、個々の人格やを尊重した言葉かけや対応を心がけるとともに、プライドやプライバシーを損ねないよう細心の注意を払っている。	1人ひとりの思いを受け止め、敬意を込めた支援を行うことを基本としたユマニチュード介護技術を学びながらサービス提供を行っている。職員は、プライドを傷つけないような言動・プライバシーを損ねないような支援を職員相互に注意しあいながら行っている。特に、排泄や入浴時の声掛け・誘導に配慮している。	

京都府 グループホーム まごころ城陽（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で「出来ること」「出来ないこと」「したいこと」「したくないこと」を把握し、その方に応じた生活支援を心がけている。又、本人が自分の思いを表出出来るよう配慮し、その中で表出した思いを見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、あくまでも本人の状態や気持ちを優先しその人のペースに応じた支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自己決定して頂けるよう働きかけている。またその人の好みのもを一緒に買いに行くようにしている。散髪は希望がなければ2ヶ月に1度の訪問理容を利用して頂いているが、家族の付き添いで馴染みの美容院を利用されている方もいる。お化粧品や日常の髭剃り、整容等においては出来ないことを手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、食材の買い物は一緒に行っている。また、献立や調理、盛り付けなど、利用者と職員と一緒に楽しみながら行えるよう取り組んでいる。後片付けに関しては毎日一緒に行えている	献立から買い物・下準備・調理・味付け・盛り付けなど一連の流れの中で、できる事を職員と一緒にやっている。入居者同士や職員とおしゃべりしながらの食事風景が見られた。食事が済むと各自下膳している。シルバーカーにお膳を載せて下膳する入居者もあり職員は傍で見守っている。クリスマスには家族も招待して一緒に食事を楽しむ機会を設けている。時には外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は日々記録して過不足にならないように心掛け、個人の嗜好を取り入れながら、嚥下、咀嚼能力に応じた食や飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る限り、毎食後の口腔ケアの励行に努め、必要な方には職員が付き添い、支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を支援し、必要とされる方には排泄パターンやその時の状態を把握して、その人に合ったトイレ誘導を行っている。	排泄記録をもとに、適宜声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援している。出来る限り、紙パンツやパットなどの使用が減り布パンツに変えられるように努めている。病院に入院中は紙パンツを利用して退院後布パンツに変えることが出来た事例がある。	

京都府 グループホーム まごころ城陽（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、レク、歩行練習など身体を動かす環境を作っている。毎朝おやつとしてヨーグルト等の乳製品を提供、食事の中で食物繊維をとりにくかったり、個人の状態に合わせてファイバーなどを摂取していただいている。また必要な方は排便チェック表をつけ、ホームドクターとの連携により下剤での排泄調整を行うなど便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかの日課の中で、午後1時30分から3時30分の入浴時間を基本に、利用者の希望する順番・時間・湯温等に配慮した入浴を心掛けている。	入浴が楽しいひと時になるように、希望を聞きながらその人の好みを大切に支援している。職員と会話を交わしながらゆっくり入浴してもらっている。週3回の入浴をめどにしているが、拒否される場合は、声掛けの方法を変えたり、お好きな入浴剤を使って「温泉に入りましょうか」などと工夫して入浴に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースを尊重しながら夜間の安眠に繋がる日中の活動を支援しているが、寝付けられない場合や混乱による徘徊が見られるときは寄り添い、会話や温かい飲み物を提供したりと、リラックスして休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を整備するとともに、服薬前の誤薬防止確認の励行、服薬確認などの支援を行っている。また、気付いたことなどは記録して、薬によつての状態変化が無いかの確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に応じ料理や掃除、軽作業などの役割を持って頂いたり、得意とされることについてはバックアップできる様に努めている。また、外出などでの気分転換の機会を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って可能な限り戸外へ出るように努めている。気分転換に玄関先での外気浴、散歩、小規模多機能ホームとの交流も行っている。また、家族の方に協力頂き、月に1回個別外出をしている方も居られる。	季節を感じられるように、定期的に外出の機会を設けている。行先は、日常的な会話の中から聞き取って実現している。平等院や嵐山に出かけて喜ばれている。日常的には、近在のコーヒー店やスーパーに出かけて気分転換を図っている。戸外ではないが2階の広いベランダで洗濯物を干しながら、外気浴や日光浴をするのも心地よい時間になっている。	

京都府 グループホーム まごころ城陽 (ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望により、金銭を所持している利用者もいるが、その他の方は了承を得た上で事業所で一括管理している。買い物等の際には可能な場合、利用者から支払いが出来るよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持を含め、本人や家族の希望に沿って電話や手紙を利用して頂いている。また、年賀状の作成をレクに取り入れ、家族や馴染みの人とのつながりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面には行事の写真、季節に合った絵や利用者の作品などを飾り、リビングに面した台所は対面キッチンを生かして調理音や匂いで生活感を味わって頂くなど、居心地のよい雰囲気作りを心がけている。また、毎日の掃除を一緒に行うことで清潔を保ち、脱衣所にエアコンを取り付け、極力温度差を無くすようにも努めている。	共用空間であるリビングは、適度な明るさがあり壁面は入居者の笑顔あふれる写真などが飾られている。最近入居した方が写真が好きという事で、四季の風景写真を部屋の一角に貼って心を和ませてもらえるように工夫している。テレビ番組表を大きく拡大して好きな番組に赤線を引いて楽しんでいる男性や気の合う女性同士でおしゃべりを楽しんでいる風景がある。不快になるような音や臭いなどなく落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子の設置場所を工夫し、気の合う人同士が気軽に話せるようにしている。また、リビングにもソファを置き、同空間内に居ても、少し距離を置いて気軽にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し自宅ですべて使っていたなじみの物、使い慣れた物、大切な物を持ってきて頂ける様働きかけている。	大きな窓があり適度な明るさがある清潔感がある。衣服掛けや物入れなど適宜配置し、家族の写真や飾り物を置いて、その人らしい部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入室表示や居室扉の表札、洗面所には歯ブラシやコップなどに名前をつけることで、自身で判断し、行動できる材料となっている。また、手すりの設置、居室内での家具の配置等で安全で自立した暮らしが出来るように工夫している。		